

でんでら通信 第百十二号 令和五年九月

秋の永代供養会

九月二十日(土)午後二時より

長らくコロナ感染防止のため、規模を縮小しておりますが永代供養会を今回より通常どおりの開催とさせていただきます。

今回は、本山からの巡教師であります静岡県、平田寺住職、竹中智厚師にご法話いただきます。

どうぞ皆さん、万障お繰り合わせの上ご参詣ください。

坐禅会

九月二十一日(木)十時に坐禅会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

山号寺号

「瑞光山禅林寺」(ずいこうざんぜんりんじ)

これが、当寺の正式名称です。俗に山号(さんこう)

という名がお寺の名前の上に付いております。この山号はどんなお寺にも付いています。ちなみに京都

にあります当寺の本山は、「正法山妙心寺」といい

ます。また「比叡山延暦寺」や「高野山金剛峰寺」

などのように、寺の名前より山号のほうが有名なお寺もあります。

山は、とりわけ日本の山は信仰と修行の場であり、

心の古里でもありました。古来より山々には神々がおられるとして信仰の対象とされてきました。それは日本に仏教が伝来しても同じで、お寺は山に建てられました。やがて平地へとお寺が建てられるようになって、お寺にはみな「〇〇山××寺」と山号が付けられました。

また昔のお寺は、修行道場や鍛錬場あるいは寺子屋という人々の学びの場でありました。山のお寺が学校ということから、学校の行き帰りは今も「登校・下校」と山登りの言葉が使われます。

さて落語に「山号寺号」という演目があります。

ある商家の若旦那が、なじみの幫間(ぼうかん)と

か男芸者ともいいます)・一八と出会う。一八が

「どこへ行くんですか」

とたずねると、若旦那は

「浅草の観音様だ」と答える。

「ああ、金龍山浅草寺ですか」

「俺が行くのは浅草だよ」

「ですから、あそこは本当は金龍山浅草寺というんです。お寺には『なになに山なになに寺』という

正しい呼び名があり、この山号と寺号を合わせた

『山号寺号』というのが、どこにでもあります」

それを聞いた若旦那は「どんなところにも山号寺

号があるんだな」と念を押して、

「この場にもあるか。もしあったら金をたんとやる」と一八に迫りました。

一八はとんちをきかせ、「あそこでおばさんが縁側を拭いてますね。『おかみさん拭きとろじ』」

「乳母(おんば)さんが子供を抱いている。

『乳母さん子を大事』」

などと、次々に「山号寺号」を披露する。

看護婦さん赤十字

車屋さん広小路

自動車屋さんガレージ

時計屋さん今何時

肉屋さんソーセージ

お医者さんイボ痔

清子さん水前寺

一八に所持金をほとんど巻き上げられてしまった

若旦那は、「今度は私がやろう」と言うなり、金で満杯になった一八の財布を取り上げてふところに入れ

「一目散随徳寺(いちもくさんずいとくじ)」と言って逃げる(随徳寺)とは、「跡をずいとくらます」

ことを意味します)。

逃げられた一八は、

「南無三、し損じ」と悔しがりました。

おあとがよろしいようで!